ガーナでそろばんプロジェクト 101　号（2022 年 9 月 30 日）

★★　　つまづいたら初心に返り大切なことを確認する　★★

ガーナのコロナ対応の制限はなくなったものの、その代わり世界中が物価高騰になる中、ガーナの物価もローカルガーナ人の生活は大丈夫なのだろうかと心配になるほど上がってきました。それは車を持たない市民の乗り物であるトロトロも大幅な値上がりとなり、値上がりに抗議する乗客に出会うととても胸が痛くなるのです。

久しぶりにそろばんの授業をすることが出来ました。土曜日開室のそろばん教室はしばらく見送りです。トロトロ代が値上がったことにより、土曜日日曜日の乗客がなかなか集まらないため、村に行くのに平日以上に時間がかかるからです。ほぼ1年ぶりに5年生でそろばんの授業をすることが出来たなか、出来たという喜びとは反対に“誰一人取り残さない”と決めたことへの複雑な想い、騒ぎ立てることへの苛立ち等、いろんな想いがありました。しかし、この“ガーナでそろばんプロジェクト”を読み返し、思い悩んだら初心に返ればよいのだと自分に鼓舞激励をしたのです。一年前、当時４年生で行なったそろばんは make5,make10 を考えるものでした。そしてその当時から感じていたのは　子ども自身の学びに対する温度差でした。黒板に貼った数カードそして教師用そろばんに目をキラキラさせ考える子どももいればただただ時間が過ぎるのを待つ子ども。一年前の私は、このただただ待つ子どもを取り残さないようにしたいと躍起になっていました。その子どもたちに数の理解、そろばんの珠の読み方の理解をしてもらいたいと躍起になっていました。久しぶりに行なった授業も子どもの温度差を悲しいほど感じました。1年あまりの間、未消化だった子どもたちは久しぶりのそろばんの授業を喜び“私に答えさせて”と手を挙げるのとは反対に、普段の授業から時が過ぎるのをただボーッと過ごしているであろう子どもは机の下に食べ物を隠し食べている有様。この子たちをどうやって誰が取り残さないように出来るのか？子どもに対しての苛立ちより自分に対して苛立ちが生まれました。また記録のために写真を撮れば“フェイスブックにアップするんだ。”と騒ぎ立て写真に撮ってもらいたく“答えさせて”コールをする子どもたちに苛立ち疲れてしまったのです。子どもの学びに対する温度差があまりにも開きすぎているのです。“所詮、誰一人取り残さないなんて出来ないんだよ”と正直思う時もあります。しかし、このそろばんを通して“10 がわかる喜び”に加え make5,make10 がわかるようになる事が、誰一人取り残さないにつながるのか？初心に返り、また何度も何度もこの課題にぶつかりながら、子どもにそろばんの計算の魅力を伝えていきます。

報告　TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様